



# 箕面小だより



箕面市立  
箕面小学校  
令和6年(2024年)  
5月号

学校教育目標  
めざす子ども像  
めざす学校像

支え合い、ともに伸びゆく箕面小っ子

ともに考える子(知)、ともに高め合う子(情)、ともにやりぬく子(意)

○あいさつと笑顔であふれる学校

○思いやりと優しさが感じられる学校

○高学年が在校生の「あこがれ」の存在となる学校

○保護者・地域とともにあゆみ、信頼される学校

## 遊び

校長 垣内 幸太

暖かいを超えて、すっかり暑くなってまいりました。運動場からは子どもたちの遊ぶ元気な声が聞こえてきます。教室へと帰ってくる顔は汗びっしょりです。また教室に目をやると、本を読んだりパソコンを操作したりと楽しそうに過ごしている子どもたちがいます。思い思いに休み時間を過ごす子どもたちを見ていると、元気と幸せをもらうことができます。

さて、みなさんは、小学生のころどんな遊びをしたでしょうか。わたしがしていた遊びを思いつくままに挙げてみます。『缶けり、ドッジボール、めんこ、一輪車、竹馬、探検ごっこ、けいどろ、手打ち野球、サッカー、ジャングルジムおにご、くつ飛ばし、ろくむし、ゴムとび、だるまさんが転んだ、高オニ、色オニ、Sケン、ゲームウォッチ・・・』夢中になって遊んでいたことが思い出されます。みなさんの思い出と重なる遊びはあったでしょうか。

遊びの定義は難しく、色々なとらえ方をされています。フランスの社会学者ロジェ・カイヨワ氏は、遊びを「強制されない自由な活動」「遊びの場と時間が決まっている」「結果がわからない未確定な活動」「富を作り出さない非生産的な活動」「一定のルールに従わなければならない活動」「非日常の世界の中で行われる活動」の6つに定義しています。もちろん子どもたちはそんなことを微塵も感じずに遊んでいるのでしょね。

しかし、こう捉えると子どもたちが遊びに夢中になっている理由が見えてきます。子どもたちの遊びは、我々大人が関与しない子どもたちの世界の中で、独自のルールや独自の楽しさを見出しています。また、そこで仲間への気遣いやルールを守ることの大切さ、協力することの楽しさや勝ち負けの感情・・・多くのことを経験しています。遊びの中には、子どもたちの心を動かす要素がたくさん詰まっています。

もちろん時に、偏ったルールや危険な遊び方、トラブルなどが発生して、大人が関与する場面も出てきます。しかし、その際も、「それはこうすべきだろ!」「もうそんな遊びやめなさい!」と頭ごなしに正論を述べるのではなく、子どもたちの世界を十分に汲み取ったうえで、正しい方向へ導くことがわたしたち大人の務めではないでしょうか。

子どもたちの世界、いろいろな経験、損得や駆け引きを知った大人ではもう感じるこのできない世界です。見ていると懐かしくも羨ましく感じることもあります。箕面小学校では、これからも子どもの世界を大切にしながら、みなさんとともに子どもたちの成長を見守ってまいります。引き続きのご理解、ご支援のほどよろしくお願いいたします。